

Kaori Nakano

みなさまは、次の行動をどのようにご覧になりますか？

プラカードをもって「善き」大義のための行進に参加する自分の写真をSNSに投稿。LGBT差別に反対するなど「善」なる立場を表明するTシャツを着る。人種差別に見えるような商品を作ったブランドの製品を燃やす写真を投稿する。

「善い」ことを行うのはすばらしいことですよ。でもその善行をアピールされると、やや違和感を覚えませんか？ 「善き」自分を承認してほしいという下心がうつすら見えて、せつかくの「善意」もくすんで見えることがあります。このような行為は「美德のひけらかし(virtue signaling)」と呼ばれます。

始まりは、2015年。「自分は人々の不幸に共感を示し、心に寄り添うことのできるいい人である」ことを示すためにSNSのプロフィール写真の背景をテロの犠牲になった国の国旗に変えたり、慈善運動の資金調達のために氷水をかぶるアイスバケツチャレンジを投稿したりする美德のジェスチャーが目立つようになりました。リスクをとらず善意だけ派手にアピールするのは恥ずかしいという感覚はない

のかという不快感が広がり、それを言葉で斬つたのがイギリスの作家、ジェームズ・バーソロミューでした。2015年4月、英「スベクテイター」誌で「美德のひけらかしの不愉快な誕生」(The awfulrise of virtue signaling)という記事を書き、この言葉を大流行させます。

なかには純粹な善行もあります。しかし、身体的・経済的な

中野香織
ファッション歳時記
93

美德のひけらかし

着たジャケットの意味も見えてきます。I really don't care. Do you? (私はほんとうに関心がないわ。あなたは？)と背中大きく書かれていました。

多くの人々は、なんと無神経なジャケットかと憤つたのですが、次のような含意があつたのではないのでしょうか。「とても心配だ」とアピールしたとしても、「美德のひけらかし」として叩かれてしまう。であれば、「関心ないわ」と示した方が、美德と美德叩きが大好きな世間に対する皮肉も効いていてクールだわ、と。いずれにせよ、「美德をひけらかさない」この「着で、私はメラニア夫人にちやうと好感を覚えませんでした。

テロや天災にあつた人に関心を寄せるのは正しいことだし、差別に反対し、多様性と包摂力のある社会の実現のために闘うのもよいことです。ただ本気で思うなら、犠牲を払い、行動すればいい。うわべだけ「善意」をひけらかして大義に参画したつもりになつてゐることほど恥ずかしいことはない。今はそんな価値基準が広がる時代であることを、メラニア夫人のメッセージが逆説的に照らし出しているのです。

そういう状況を思えば、昨年6月、アメリカのファーストレディー、メラニア・トランプが、難民キャンプの子供たちを見舞うためにメキシコ国境へ向かう時に

なかの かおり

1962年生まれ、富山市出身。服飾史家として研究・講演・執筆をおこなうほか、昭和女

